

会 議 結 果 報 告 書

令和 8 年 3 月 4 日

会議の名称	第 7 回 東地区まちづくり懇話会	
種別	☐ 附 属 機 関 ☒ 懇 話 会 等	
開催日時	令和 8 年 1 月 28 日（火）14 時 00 分 ～ 16 時 0 0 分	
開催場所	赤れんがパーク 2 号棟 特別会議室	
出席者	別紙のとおり	
議題	（１）舞鶴工業高等専門学校 副校長との対話 （２）東地区まちづくり懇話会の成果	
公開の区分	☒ 公 開	
	☐ 部分公開	[理由]
傍聴者数	0 名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市建設部都市計画課 TEL (0773) 66-1048
-----	--------------------------------------

第7回東地区まちづくり懇話会

1. 日時: 令和8年1月28日(水)14:00~16:00

2. 場所: 赤れんがパーク2号棟 特別会議室

3. 出席者: 舞鶴工業高等専門学校 加登副校長

(委員) 嶋田委員、川井委員、名取委員、福村委員、渡邊委員、岡井委員(オブザーバー)

(事務局) 上羽次長、山下主幹、阿部係長、浪江

4. 内容

○舞鶴高専の考え

・北近畿の未来を切り拓く地域創生の起爆剤として、舞鶴市の中心に舞鶴高専の一部をまちなかへ設置することで、学生だけでなく、地域一体で盛り上がり、産学官連携を強化して新たな産業創出と理工系人材の育成を推進したいと考えている。

【意見交換】

・今までこちらで議論していた話と一致している。高専の思いをたくさんの人に知ってもらい、周りが協力して形にしていけるよう結びつけていきたい。

・低学年をしっかり学力で鍛えて、高学年のときに街中でいろんな展開をするのが理想だと考えている。

・駅から離れた地域にありながら頑張っているが、まちなかで活動するには車に乗せて行く必要があり、学生たちがまちなかで自主的に活動するには移動の課題がある。

・地元の子供たちが高専に来ないことには、地域に技術者を輩出し、還元することは難しい。まちなかに高専の拠点があれば、地元の小中学生にとって高専がもっと身近な進学先として認知される。

・現在の学生寮は費用が安価であるため、まちなかに居住する際の家賃負担が保護者にとって課題となる。

・まちなかに住むことが非常に重要。1戸建ての空き家をシェアハウスにして、家賃を安くする代わりに商店街の活動に参加させるということもできるのではないかな。

・駅の近くであれば、西舞鶴はもちろん、福知山や綾部などからも通えるようになる。通学のハードルが下がることで、地域の子が増え、地域に人材が根付く教育が展開しやすくなる。

・もし施設整備をする場合は多額の費用が見込まれるため、イニシャルコストやランニングコストを抑える事業スキームの慎重な検討が必要である。

・民間資金を活用する手法等を用いる場合、既存施設の活用も含めた柔軟な検討を行うべき。

・何年かかってもその方向に向かっていけばいいが、スピード感として今できることはないのか。過去の取り組みがなぜ失速していったのかを見つめ直し、今できることから1個ずつ形を作っていく方がいい。高

専の子たちが「ここを何とか使わせてほしい」と言ってくれれば、周りの大人たちも動くと思う。

・教員が自前でやろうとしすぎて疲弊してしまった。地域の方と共同で運営していたら違う展開があったかもしれない。

・学生が商店街で子供向けの学習塾を行ったり、リスキリングの拠点として活動できたりすると、学生にとっても良いと思う。

・当事者である学生を、最初の方方向性を決める段階で巻き込むことが大事だと思う。彼らがどのように学びたいかという意見を取り入れるべき。

・高専のカリキュラム改組には時間を要し、入学を目指す中学生へ数年前から周知する必要があるため、スピード感を持って進める必要がある。

○懇話会の成果

・地域としてどう支えるか、舞鶴市、舞鶴高専、地域代表者等による協議・検討を進めていく。